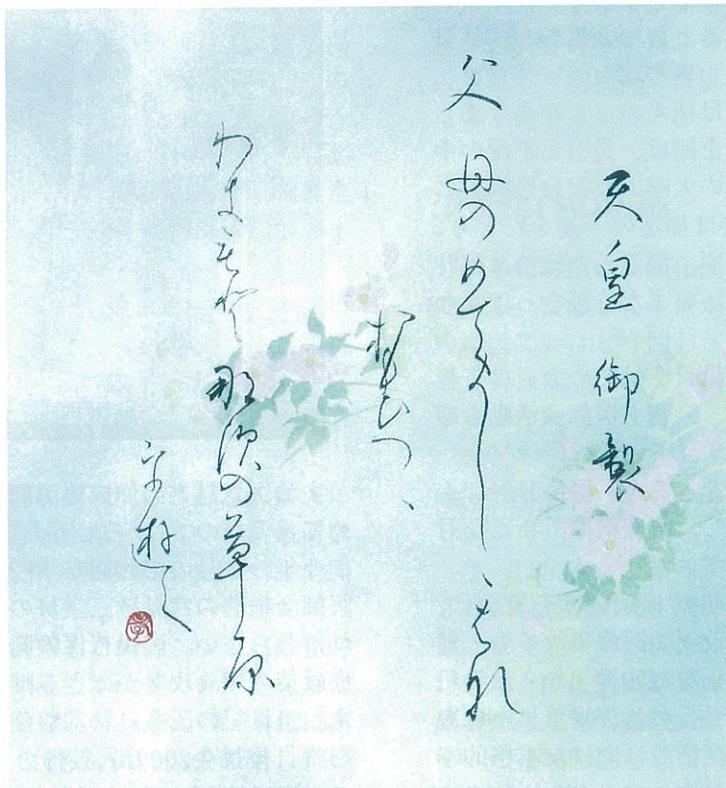


岩手郡医報

高橋 孝先生書



高橋孝先生書

Contents

平成12年度決算総会（特集）

- 会長挨拶（要旨）
- 岩手郡医師会会務報告
- 平成13年度岩手郡医師会事業計画
- 平成13年度岩手郡医師会休祭日当番医歳入歳出予算
- 平成13年度岩手郡医師会一般会計歳入歳出予算
- 研修会「介護保健—特に主治医意見書の書き方について」
- 平成12年度岩手郡医師会健康講座 in 松尾
- 平成12年度岩手郡医師会健康講座 in 零石
- 平成12年度零石町民健康講座始末記
- 岩手県盛岡保健所乳幼児健全発達相談指導システム委員会の開催
- 岩手山噴火対策防災訓練 健康教育担当理事
- 平成12年度冬期岩手山噴火対策防災訓練 アマチュア無線通信訓練報告
- 労災保険における二次健康診断給付事業について
- 表紙のことば 天皇御製
- 編集後記

高橋牧之介

六本木義光
柄内 秀彦
柄内 秀彦
上原 充郎
上原 充郎
柄内 秀彦
及川 忠人
高橋牧之介
高橋 孝

2001.3.No.69
岩手郡
医師会

特集 平成12年度決算総会

会長挨拶

岩手郡医師会長 高橋 牧之介

記念すべき21世紀の到来ということで、期待と緊張に身の締まる思いがしましたが、いざ21世紀になってみると何の変哲もない毎日といった感じがいたします。

20世紀最後の昨年は種々のことがありました。Y2K問題で幕を開け、長引く不況の中で、有珠山、三宅島の大噴火など自然災害に見舞われ、政局不安は加速の一途をたどり、止まるところを知らず、混沌した政治は何時迄続くのでしょうか。いまだに続きっぱなしです。

岩手郡医師会は、役員をはじめ会員の皆様のご理解協力により、会務も医師会活動も順調に推移しております。

医療界の昨年を振り返ると、医療分野でも様々な出来事が発生し、医療機関も新たな対応に迫られています。

昨年から始まった介護保険制度を筆頭に、医療報酬改定・薬価改正・医療事故多発・健康保険法・医療法改正など20世紀から21世紀につながる制度改革も行われ、来年早々にも新たな高齢者医療制度創設に向けた本格的審議が始動します。

21世紀の医療社会はどう変わって行くのか、社会保障制度の改革構造がどのような視点で進められるのか、興味は尽きないところです。

昨年4月からスタートした介護保険制度ですが、岩手郡は広域でおこなっています。16名が認定審査員として審議に携わっておりますが、県の話では岩手郡が一番順調に運営されているんではないかといっておるようです。

この介護保険についても問題・課題はあります。介護度の判定にいささかの食い違いがあるとか、主治医意見書の書き方の問題などを指摘されております。今後の対応が望まれます。



主治医意見書の作成等医師の果す役割は極めて重要なので、よろしくお願ひいたします。

今年の7月の第19回参議院選挙では、日本医師会推薦の武見敬三議員の必勝を期さなければならない。国民皆保険制度を死守し、医療政策の理論攻勢ができる唯一の人であります。21世紀の医業経営基盤確立のため武見敬三議員後援会200万人獲得を目指してますので、100%達成にむけご尽力ください。

テーブルに着き、懸案の高齢者医療制度改革の改革案取りまとめに向けた意見交換を開始する方針が決まっています。

改革議論の焦点とする老人保険拠出金問題では、日医は拠出金全廃を前提としているが、「当面は3割カットを図り、軽減分を国庫で負担すれば一息つける」と提案します。これに対し健保連では「老健拠出金を税で置き換えることは理論的に可能だが、それでは保険の性格を失いかねない」といって、老健拠出金を一気に全廃する考え方には慎重な姿勢を示した。

ただ日医も健保連も、公費負担割合を介護保険と同様当面5割まで引き上げる方向には賛成する姿勢を示している。

高齢者医療制度改革は今年7月の参院選を挟んで、秋以降に本格化すると予想される。日本国民の国民皆保険に対する支持は極めて高い、この期待にこたえるべく国民皆保険制度を21世紀も引き続き継続的、安定的に運営するために粘り強く抜本改革を進めていくことでしょう。

また、高齢者医療制度改革については、政管健保の事業安定化資金が2002年度には枯渇するほか、組合健保、国保の状況も同じなので、「改革はまつたなし」だと思います。

そのほか2001年度の課題として、若人の薬剤一部負担制度の廃止、薬価・診療報酬改定論議など、容易ならざる課題が山積しています。

改定健保法では、1日800円の定額負担（月4回を上限）を診療所が選択した。医科で8割程度、歯科で9割程度が定額を選び、数字的には定率1割負担制を選択した診療所を大きく上回った。

診療所の定額性届出状況は、都道府県別にみて岩手県が最も届出割合が高く、診療所数757・届け出診療所数694で91.68%で、全国1位です。

21世紀の医療展望した場合、少子高齢化時代を控えた医療保険抜本改革のカギを握るのは日本医師会と健保連の改革案の一本化にあると思います。（利害関係者同士の話し合いだからです）。これから診療所機能のあり方についても、7月の参院選を挟み、今年の秋から議論が本格化すると思います。

21世紀医療はまさに大きな変革期に入りました。

新しい世紀に入り、いよいよ本格的超高齢化社会・少子化時代となった。この背景から岩手を活性化させ住みよい地域にするためには我々医療人の果す役割はなんであります。

健全な高齢化社会の構造

超高齢化社会を乗り切る最も重要なポイントは、多くの住民がいかに健康で長生きするかである。出来るだけ医療や介護を受けずに

すむ住民が多く、従って、長期入院や要介護者の比率が少なければ、その分不幸にして医療や介護を受けなければならなくなったり人々にきめ細かい手当てができるはずである。健康度の高い地域となれば、その一つとしての現れは、その市町村における介護保険料が下がり、地域活性が高まるものと思われる。我々医師会としては積極的に健康教育事業に取り組むべきである。その意味で、この2月の雫石町・松尾村の健康教育講座は的をえたものがありました。

少子化への対応

少子化対策は高齢化問題以上に大きな問題である。安心して子供が産める環境作りのために医師会はどう関わったらしいのか。出生率上昇を確認するのを待つ以外策はないのか。

医療制度改革への対応

年末に決定した第四次医療法改正は本年度3月に施行される。その目玉は「一般病床」と「療養病床」の区分である。新しい病床が定着後、医療計画が見直され、従来の必要病床数から基準病床数に改められることになっている。医師会としては各医療圏における効率的医療提供体制再構築に際し、各地の事業を勘案し、いまから病床数調整の作業を始めるべきである。

もう一つ、医師の卒後研修の義務が2004年から実施されることが決まったので、医師の養成に医師会の参画が重大の意味をもちます。



総務会会務報告

総務担当理事 及川 忠人

平成12年2月12日の岩手郡医師会総会以降の主なる関連行事を大まかにご報告申し上げて、総務報告に替えたいと存じます。その間、毎月の総務会および理事会は定期的に開催されておりましたことを付け加えたいと存じます。



平成12年（2000年）

- 2月26日(土) 岩手県医師会代議員会
- 6月10日(土) 岩手郡医師会決算総会
- 6月17日(土) 岩手県医師会臨時代議委員会(決算)
- 6月25日(日) 岩手県医師会総会・岩手医学会春季総会（江刺医師会）
- 7月22日(土) 臨時代議委員会（岩手医大医師会承認）
- 8月10日(木) 医療情報担当者連絡会議（県医師会館）
- 8月27日(日) 岩手県医師会親睦野球大会（盛岡市医師会担当）
- 9月9日(土) 救急の日・心肺蘇生法講習会（松尾村保健福祉センター）
- 9月19日(火) 救急医療懇談会（谷口先生講演）
- 10月15日(日) 岩手郡医師会親睦ゴルフ大会
- 10月27日(金) 岩手医大高次救急センター20周年記念式典
- 11月25日(土) 岩手郡医師会忘年会・介護保険研修会
- 12月6日(水) 平成12年度冬期岩手山噴火防災訓練打ち合わせ(1)
- 12月26日(火) 防災訓練打ち合わせ(2)

平成13年（2001年）

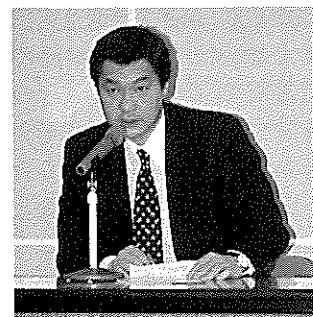
- 1月12日(金) 防災訓練・医療関係者打ち合わせ
- 2月10日(土) 松尾村村民健康講座
- 2月17日(土) 零石町民健康講座
- 2月18日(日) 平成12年度冬期岩手山噴火防災訓練（玉山村）
- 2月25日(日) 岩手県医師会代議委員会参議院選挙・時局講演会（武見敬三氏）
- 3月3日(土) 岩手郡医師会通常総会（マリオス）・介護保険研修会（六本木氏）

平成13年度総務基本方針を簡単に申し述べますと、昨年の方針を踏襲することになりますが、特に郡医師会のさらなる活動の活発化と懸案の医療情報ネットワークの構築に向けての会員相互の連携強化をお願い申し上げたいと存じます。

さらにまた先日の防災訓練の反省を踏まえて今後、救急災害医療システムの連携強化と見直しをして参りたいと思いますので、本年もご支援ご協力をお願い致します。

地域医療会務報告

地域医療担当理事 久保谷 康夫



年度当初の事業計画に沿って会務報告した。

- 1) かかりつけ医の機能強化と関係機関との連携について
救急・災害医療の初動体制について、盛岡広域消防団との連絡協議会・懇話会を開催した。
休祭日当番医制度の協力に感謝した。
また13年度においては、かかりつけ医マップの作成を予定しているとした。
- 2) かかりつけ医と保険・福祉事業等の連携について
介護保険講習会を開催し、主治医意見書の作成等について研修した。

介護保険認定審査会委員の推薦について報告した。

3) かかりつけ医とかかりつけ薬局との連携について

県薬剤師協会役員と連絡協議会設置等について会同した。

4) 検診事業所等との連携強化について

県予防医学協会と学校保険・産業医部門での更なる連携について会同した。

5) 会員・他医師会との親睦・連携強化について

県野球大会の成績について報告した。

労災部会報告

労災担当理事 篠村 達雄



◎3月23日岩手県医師会労災部会幹事会が開催されます。労災保健・自賠責保険に関して感じていること、問題点・御意見があります。たら3月10日頃までお知らせ下さい。

3月15日県医師会の方へ連絡します。

◎労災保険で二次健診まで保険給付をやるようです。

詳しくは、3月8日の日本医師会での説明会の後で分かると思います。

生涯教育会務報告

生涯教育担当理事 岡本 彰

◎平成12年3月23日(木)岩手県医師会館において、岩手県医師生涯教育委員会が開かれました。岩手県医師会より高橋牧之介先生も御同席いただきました。

◎平成12年度は前年通りの方法で行うとのことでした。日本医師会雑誌3月号に生涯教育申告書が送付されています。

◎平成13年度3月19日平成12

年度生涯教育委員会が開かれます。

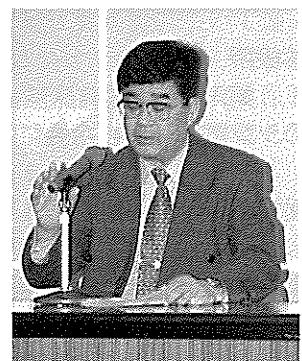
◎平成14年度からの講習会については、まだ詳細不明です。

◎本年度申告書の提出よろしくお願い申し上げます。高橋会長宛にて御送付お願い申し上げます。



広報会務報告

広報担当理事 坂井 博毅



◎平成12年度岩手県医師会広報委員会、いわて医報編集委員連絡協議会が平成12年度6月10日岩手県医師会館で開催され、石川県医師会長のご挨拶に始まり

編集委員長、副委員長の互選に入り、委員長には斎藤恵子先生、副委員長には田郷敏昭先生が選出されました。

これまで医師会では広く県民の皆さんへの啓蒙活動として、約30年間テレビ放映を行ってきましたが、財政的な面も考慮し、今年からは岩手日報で、医師会だより「お元気ですか」を月1回掲載することになりました。これは原則として各郡市医師会が分担責任を追う事として、岩手郡医師会では昨年9月に担当し、救急災害に関して掲載しました。

◎岩手郡医報66号は9月29日発行した。

◎岩手郡医師会編集委員に広報担当の坂井博毅の他、及川忠人、久保谷康夫、高橋邦尚、柄内秀彦、山口淑子の5人の先生方が選出

されました。

- ◎岩手郡医報67号は11月30日発行した。
- ◎岩手郡医報68号は2月19日発行した。
- ◎岩手郡医報69号は3月下旬発行予定。
- ◎岩手郡医報は奇数月の年6回発行予定です。先生方の医療情報、エッセイなんでも結構です。読んでもらえる医報をめざして頑張っていますので、御投稿をお願いします。
- ◎今後の広報活動として、医療機関マップを中心とした岩手郡医師会のホームページを検討しています。先生方の御意見をいただきたいと思います。

勤務医部会会務報告

勤務医部会 岡田 行生

診療所

1. 第13回全国有床診療所連絡協議会総会のシンポジスト打合会について

7月8日（土）午後4時から第2会議室で開催された。

及川慶一、石田茂登男、渡辺正敏、黒川賀重各シンポジスト、石川会長、田郷理事が出席。スピーチの時間、内容、その他基本的事項について打合わせをした。

なお、7月21日に座長の眞瀬先生にも参加して頂き、リハーサルを予定している。

2. 全国有床診療所連絡協議会総会打合会について

7月15日（土）午後3時30分から東京丸大デパートルビーホールで開催された。7月29、30日に岩手県担当で盛岡市で開催される標記総会に関し、最終打合せを行った。石川会長と田郷理事が出席した。

3. 第13回全国有床診療所連絡協議会会長・シンポジスト打合会について

7月21日（金）午後6時30分から第2会議室において、シンポジウムの座長眞瀬静先生、シンポジスト黒川賀重、渡辺正敏、石田茂登

男、及川慶一の4先生、石川健理事、田郷理事が出席した。スライドを使いながら本番どおりのリハーサルを行った。

4. 13回全国有床診療所連絡協議会総会懇親会

7月29日（土）午後6時からホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングで開催。石川会長、内藤全国有床診療所連絡協議会会长の挨拶、坪井日本医師会長、増田知事（副知事代読）、桑島盛岡市長の祝辞、大堀岩手医大理事長の乾杯があった。予防医学協会のさんさ踊りがアトラクションとして披露され盛会であった。

5. 第13回全国有床診療所連絡協議会総会

7月30日（日）午前9時から岩手医師会館4階大ホールにて開催。

石川会長の挨拶、坪井日本医師会長の祝辞（石川高明副会長代読）があり、その後平成11年度事業報告、決算、平成12年度事業計画、予算が承認された。引き続き行われたシンポジウムは4人のシンポジストとも内容の充実した面白い発表であり好評であった。最後に「有床診の近未来像」のテーマで日医の立場から糸氏副会長、行政の立場から関山保健福祉部長の講演があり閉会した。

6. 第9回診療所部会幹事会FAX会議

9月14日勇壮（締切9月22日）

協議議題は部会長・副部会長の選出

部会長に高橋牧之介先生、副部会長には及川慶一、石川健両先生に全員賛成でお願い頂くことになりました。

第85回勤務医部会幹事会 並びに久慈・二戸医師会 勤務医部会会員懇談会

勤務医部会 岡田 行生

平成12年9月30日（土）午後3時より久慈グランドホテルにて開催された。

石川岩手県医師会長・白岩久慈医師会長・川村二戸医師会長の挨拶のあと報告として、

1. 日本医師会勤務医委員会・活動状況について

2. 岩手県地域がん・岩手県地域脳卒中登録事業について報告があった。

次に「久慈・二戸医療圏における病診連携」をテーマに

1. 地域医療支援事業「地域連携室の役割」について

　県立久慈病院地域医療科長 下沖先生

2. 県立久慈病院救命救急センターの役割と現状について

　県立久慈病院副院长（地域連携室長）
　阿部先生

3. 久慈医療圏の遠隔システム（国保葛巻病院との画像伝送事業に関して）について

　県立久慈病院放射線科長 熊谷先生

4. 病診連携について—開業医の立場から—

　鳥谷医院長 鳥谷先生

5. 脳梗塞の病診連携について

　県立福岡病院副院长 鈴木先生

が発表され病診連携についての討論が活発に行われた。

第86回勤務医部会幹事会 並びに岩手医科大学医師会勤務医部会会員懇談会

勤務医部会 岡田 行生

1月20日（土）午後3時から岩手医科大学附属循環器医療センターで開催された。

石川会長、大堀医大医師会長の挨拶があり

1. 日医勤務医委員会活動状況

2. 岩手県地域がん・脳卒中登録事業について

報告があった。

次いでテーマ「特定機能病院医療連携推進事業」と題して協議が行われ、

1) 「事業の概要について」及川県医師会常任理事

2) 「岩手医科大学における6年間の実績及今後の方針について」東儀岩手医大附属病院長・特定機能病院医療連携推進協議会委員

3) 「作業部会の方向性について」臼井特定機能病院医療連携推進協議会作業部会長以上の先生方より講演があり、最後にフリートークが行われた。参加者71名。

第XⅠ次・第5回日医勤務医委員会委員会が13年2月2日（金）午後1時30分、日医5階会議室で開かれた。

冒頭、星北斗担当常任理事が今回の参議院議員選挙で武見敬三氏支持が到達目標200万人に対し60万に低迷している現状に触れ、「自民党に対する逆風にとらわれず、武見氏個人の政策論議を評価して欲しい」と支持協力を要請した。

次いで、日医ニュース「勤務医のページ」の13年7月予定の勤務医座談会について協議し、テーマ「21世紀における勤務医のあり方」とし、出席者は若手、大学医師会、女性医師などを含めた広い範囲から各委員が推薦した勤務医から人選することとした。

最後に答申作成にむけ審議を行った。勤務医が関与することの多い医療事故について、報道には一方的で偏見によるものがあるとし、とくに行き過ぎと思える警察の介入には「日医として異議を唱えるべき」との要望があった。



平成13年度岩手郡医師会事業計画（案）

政治の混迷と長引く不況の中で新世紀を迎えたが、医療会をとり巻く環境は依然厳しく、行き先は不透明である。

これらの混乱を脱するために、医療機関関係者自らも医政に対する関心を更に深め、県

医師会事業に対する積極的協力はもとより地方自治体等との連携を密にして、保健・医療・福祉の連携を推進し、地域住民に良質な医療を提供しなければならない。

次の事項を重点事業項目として掲げる。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 医の倫理の高揚 | 6. 医業経営の安定化 |
| 2. 県医師会事業への全面協力 | 7. 保健医療の適正化 |
| 3. 地域医療活動の強化 | 8. 小子・高齢化対策 |
| 4. 生涯教育の推進 | 9. 地域住民の健康啓蒙教育 |
| 5. 会員福祉の充実 | 10. 医療情報システムの充実 |

平成13年度岩手郡医師会休祭日当番医歳入歳出予算（案）

自・平成13年4月1日 至・平成14年3月31日 社団法人 岩手郡医師会

単位：円

《歳入の部》			
科 目	予 算 領	摘	要
補 助 金	4,239,000		
歳 入 合 計	4,239,000		

《歳出の部》			
科 目	予 算 領	摘	要
会 議 費	2,700,000	当番日調整会議 各町村との連絡会議費 在宅医療研修会費	1,000,000 1,350,000 350,000
広 報 印 刷 費 用	500,000	各地区医療機関マップ作成	
通 信 費	300,000		
救 急 医 療 対 策 費	300,000		
事 務 費	400,000		
予 備 費	39,000		
歳 出 合 計	4,239,000		

平成13年度岩手郡医師会一般会計歳入歳出予算（案）

自・平成13年4月1日 至・平成14年3月31日 社団法人 岩手郡医師会

《歳入の部》

単位：円

科 目	予 算 領	摘要	要
会 費	6,260,000	A会員 53名 B会員 37名（内免除2名）	5,035,000 (@95,000×53名) 1,225,000 (@35,000×35名)
補 助 金	83,000	地域医療 学校医	28,000 55,000
雜 収 入	37,000	預金利息	
繰 越 金	17,500,000		
歳 入 合 計	23,880,000		

《歳出の部》

単位：円

科 目	予 算 領	摘要	要
会 議 費	4,200,000	総会 理事会 総務会 監事会 県医総会費	4回 2,400,000 10回 1,000,000 12回 600,000 1回 100,000 1回 100,000
担当部会活動費	2,000,000		
医 政 対 策 費	600,000		
生 涯 教 育 費	3,000,000	健康教育費 スポーツ医学研修会 保健問題協議会経費 産業医研修会等事業費 医療情報システム研修会 医学向上費 予備費	800,000 200,000 200,000 300,000 800,000 500,000 100,000
地 域 保 健	550,000	各町村の地域保健懇談会 他都市との懇談会 郡学校保健会補助金	300,000 100,000 150,000
地 域 医 療 対 策 費	1,800,000	災害救急医療対策費 かかりつけ医機能推進連絡費 介護保険研究対策費	1,000,000 500,000 300,000
広 報 費	2,350,000	広報連絡協議会 印刷費 発送費 編集会議費 雑費	200,000 1,200,000 300,000 600,000 50,000
福 利 厚 生 対 策 費	1,000,000	県医・野球大会 県医・ゴルフ大会	800,000 200,000
租 稅 公 課	80,000		
旅 費 交 通 費	3,000,000		
交 際 費	1,000,000		
慶弔見舞金	500,000		
広 告 賛 助 金	200,000		
予 備 費	100,000		
事 務 費	3,500,000	事務員給与 事務所家賃 事務連絡費 通信費 消耗品費 印刷費 水道光熱費 リース料 事務処理費 雑費	1,200,000 240,000 400,000 600,000 390,000 300,000 120,000 30,000 120,000 100,000
歳 出 合 計	23,880,000		

懇親会風景



会長挨拶

今年から岩手医大生理学名誉教授佐藤誠先生が、岩手郡医師会の会員となられた。当日参加いただき、乾杯の音頭をとっていただいた。これまで先生には学問と教育の分野でご活躍いただいたが、今後は地域医療にも貢献されたいとの抱負をいただいた。



懇親会会場



乾杯の音頭をとられた佐藤名誉教授



介護保険と主治医の役割

岩手県長寿社会課介護保険システム整備監 六本木 義光

介護保険制度における 主治医の役割

- ◇ 要介護（支援）者に対する医学的管理
- ◇ 主治医意見書の記載
- ◇ 医療系サービスに係る指示
- ◇ 居宅介護支援事業者に対する診療情報提供
- ◇ サービス担当者会議への参加
主治医は要介護（支援）者に対するケア全般に極めて大きな影響を持つ。

1. 主治医意見書に関して

○市町村からの声

- ・意見書の提出が遅い（特に県立病院、大病院、特定の医師）

○認定審査会委員の声

- ・殆ど何も書かれていない意見書がある
- ・診断書と同じような内容で、介護の必要性に関する記載がない
- ・読めない、わからない

○介護支援専門員の声

- ・介護サービス計画作成に役立つ情報が記載されていない

○主治医の声

- ・意見書がどのように使われているのかが分からないので、どう書くべきかわからない
- ・認定結果がどうなったのか教えてくれない
- ・意見書を書くのは大変（負担）だ

認定の有効期間は通常は6カ月とされるが、3～12月の範囲で短縮・延長可能であり、有効期間の延長の取扱いは、主治医のみでなく、認定審査会委員、利用者、事務局すべての負担を軽減し、制度の長期運営に不可欠と考えられる。

2. 介護認定審査会に関して

- ・一次判定ソフトの制度が十分には高くない

- ・地域や、合議体によって二次判定の際の変更割合に相当の開きがある
- ・更新認定において認定調査結果が変わり、前回と異なる一次判定となった場合、調査の正確性、一次判定ソフトに対する不信が強まる
- ・認定の有効期間の延長・短縮の取扱いの不徹底

3. 主治医と介護支援専門員の連携について

- ・介護支援専門員が主治医意見書を活用していない場合がある

（主治医意見書の活用割合68.3%：12年7月調査）

- ・医療系サービスをケアプランに位置付けるための主治医等との情報交換が不十分

（主治医からの意見聴取割合48.2%：13年1月調査）

介護支援専門員に対しては主治医意見書の活用を指導しているが、自治体の個人情報の開示についての対応は様々であり、介護支援専門員にのみ責任があるとは言えない。

意見書は認定に反映されるものであるだけでなく、介護支援専門員に対するメッセージでもある。

主治医と介護支援専門員との連携は、以下の仕組みの活用が基本となる。

- ◇ 主治医は、市町村に対し、認定の結果を知らせるよう求める場合、主治医意見書の5、特記事項にその旨を記載すること。

- ◇ 主治医は、居宅介護支援事業者に対し、ケアプランの内容を知らせるよう求める場合、主治医意見書の5、特記事項にその旨を記載すること。

- ◇ 居宅介護支援事業者への情報提供は、診療情報提供料により評価されていること。

平成12年度岩手郡医師会健康講座 in 松尾

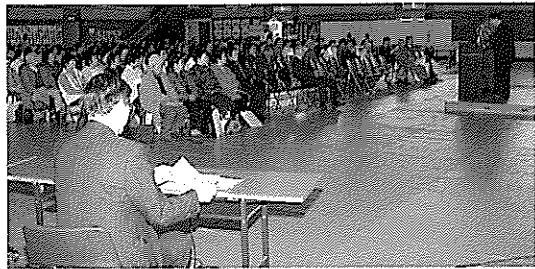
健康教育担当理事 栃内 秀彦

平成12年度岩手郡（町村）健康講座は、松尾村と零石町の2ヶ所で開催しました。松尾村での講座は、松尾村・松尾村村民憲章推進協議会・岩手郡医師会の共同開催で平成13年2月10日（土）松尾村体育館にて行われ、「予防医学は何故必要か？」と題して、岩手郡医

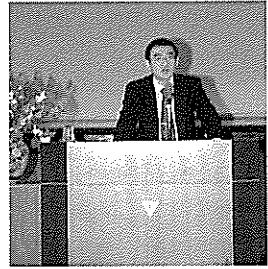
師会長 高橋牧之介先生が、「これから健康づくりについて—健康いわて21プランを中心にして—」と題して、岩手大学健康管理センター教授・所長 立見政信先生に、講演をいただき240名前後の村民の参加がありました。



高橋会長の挨拶と講演



司会の及川先生と会場風景



立身教授のご講演

平成12年度岩手郡医師会健康講座 in 零石

健康教育担当理事 栃内 秀彦

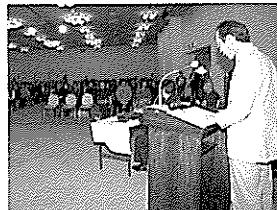
零石町での講座は、零石町・岩手郡医師会共同主催で平成13年2月17日（土）零石中央公民館で行われ、「これから医療」と題し、岩手郡医師会会長 高橋牧之介先生が、「生活習慣病について」と題して、岩手郡医師会副会長 西島康之先生が、「現在の思春期問題」と題して、岩手県警察本部少年課少年サポートセンター副所長の宮本かなる先生にそれぞれ講演をいただきました。280～300人前後の町民の参加があり盛会裏に終了しました。

岩手県県民健康講座が終了した為、岩手郡で郡医師会活動の一貫として、講座を再開放しました。

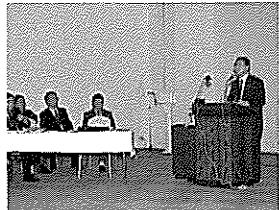
今回参加者が想像以上に多く、評判が良かったのは、講師の人選が良かったのはもちろんですが、

- ①時代に適した演題であった事
 - ②町・村民の方々が、仕事が忙しくない2月を開催日に決めた事。
 - ③町・村と共同で、主催が出来た事
 - ④講演時間が比較的短時間であった事
- などが、要因であったものと思われます。

町・村民の参加者が多くなれば、岩手郡医師会よりのメッセージが直接、町村民に伝える事が出来、良好な医師会・患者関係が出来るものと思われました。



司会の上原先生



講演する高橋会長



講演の西島副会長



花束贈呈された宮本さん

平成12年度 零石町民健康講座始末記

学校教育担当理事 上原 充郎

この講座は別記開催要項に沿って実施された。受講参加者280余名になる盛大な、しかも有意義な講座であった。

この講座の実施にあたって、事前に町民健康講座打ち合わせ会を平成12年10月12日に開催した。この打ち合わせ会には零石町の医師会員は勿論のこと、町長、町助役、収入役、町會議長、環境保健課長、同補佐、保健センター長、同副主幹、保健婦、等が参加し、会の運営、講座開催の町民への周知方法等が話し合われた。その結果保健センター副主幹が主体になり、後援団体（開催要項後援に記載）の協力を得、280余名にのぼる受講者となつた。

講演内容はたいへん好評であり、高橋会長、西島副会長は自分の得意とする成人病についてユーモアを交えて、解りやすく講演して下さった。又、岩手県警本部少年サポートセンター副所長の宮本中子先生は、岩手県内の少年少女の非行や心の問題等の事例を興味深く、解りやすく講演して下さりたいへん好評で合った。

講座終了後の講師、後援団体、私達医師会員の懇親会はこれまた楽しく、有意義な会であったことはいうまでもない。

平成12年度零石町民健康講座開催要項

- | | |
|-------------|--|
| 1 趣 旨 | ①「生活習慣病」をテーマに予防、検診について住民の毎日の暮らしを見直し、住民の健康の向上を図る。
②子どもの成長と思春期問題について考え、心の健康を推進する。 |
| 2 主 催 | 岩手郡医師会、零石医療団 |
| 3 共 催 | 零石町 |
| 4 主 管 | 零石医療団 |
| 5 後 援 | 零石町教育委員会、零石町健康づくり推進協議会、零石町食生活改善推進協議会、零石小中学校長会、零石町PTA連絡協議会、零石町青年団体連絡協議会、零石町婦人団体連絡協議会、零石町子ども育成会連合会、零石町学校保健会、零石町高校生を持つ親の会、零石町身体障害者福祉協会 |
| 6 開催日時 | 平成13年2月17日（土）13時～17時 |
| 7 場 所 | 零石町立中央公民館 大会議室 |
| 8 対 象 | 零石町民他関係者 |
| 9 内 容 (講 義) | (1) 岩手郡医師会副会長
岩手郡医師会会長
高橋 牧之介 先生『生活習慣病検診の内容について』
(2) 岩手郡医師会副会長
西島 康之 先生 『生活習慣病について』
(3) 岩手県警察本部少年課
少年サポートセンター副所長
宮本 中子 様 『現在の思春期問題について』 |

岩手県盛岡保健所乳幼児健全発達相談 指導システム委員会の開催についての報告

学校教育担当理事 上原 充郎

この委員会の設置要項の主たる部分は別記【別1】の通りである。また会出席者は別記【別3】である。委員会は（別記2）に沿って開催され、委員長は盛岡市医師会理事三浦義孝、副委員長には上原充郎が指名されました。

協議（1）については指導システム委員会が1回、乳幼児発達支援会議が6回、療育相談が2回実施されている。

協議（2）については管内市町村の乳幼児検診の実施状況やそれ等を通じて、この委員会に対象となる乳幼児の把握等について話合われた。

【別1】

岩手県盛岡保健所乳幼児健全発達相談指導システム委員会設置要項

（設置）

第1 精神的、身体的な発達面で問題があると思われる乳幼児等に対して、健全な発達・発育を支援するとともに、地域における支援体制の確立を図るために、岩手県盛岡保健所乳幼児健全発達相談指導システム委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2 委員会の所掌事務は次のとおりとする。

- (1) 乳幼児健全発達相談指導システムのあり方に関すること。
- (2) その他の必要な事項

（組織）

第3 委員会は、別表に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における後任者の任期は前任者の残任期間とする。
- (2) 委員会は、盛岡保健所保健・福祉サービス調整推進会議の専門委員会として位置づける。

【別2】

日時：平成13年2月28日（水）

13時30分～15時

場所：盛岡地区合同庁舎4階1会議室

《次第》

1 開会

2 あいさつ

3 盛岡保健所乳幼児健全発達相談指導システム委員会委員長の互選

4 協議

(1) 平成12年度盛岡保健所乳幼児健全発達相談指導事業の実施状況について

(2) 盛岡保健所管内における療育事業の効果的な実施について

——対象者の把握について——

(3) その他

5 閉会

【別3】

岩手県盛岡保健所乳幼児健全発達相談指導システム委員会委員名簿

所	属	職	名	氏	名	備	考
盛岡市医師会		理	事	三浦	義孝		
岩手郡医師会		理	事	上原	充郎		
紫波郡医師会		理	事	徳永	三郎		
盛岡市歯科医師会		理	事	大黒	英貴		
都南の園		園	長	田澤	陸夫		
市	盛岡市保健センター	保健副主幹兼母子保健係長		佐藤	恵子		
	筆石町保健センター	保健指導係長		朝賀	裕子		
	滝沢村健康推進課	主任保健婦		菅原	恵子		
	玉山村保健福祉課	保健推進係長		藤沢	昌子		
	紫波町長寿社会課	保健係長		佐々木	チワ子		
	矢巾町生きがい推進課	保健医療係長		山本	加代子		
	葛巻町健康福祉課	保健婦長兼主任健康主査		下屋敷	昌子		
	岩手町保健課	保健センター所長補佐兼保健指導係長		仁昌寺	幸子		
	西根町福祉課	保健指導係長		高橋	佳子		
	松尾村保健福祉課	保健婦		遠藤	千歳		
町	安代町保健福祉課	保健婦長兼町民健康係長		小山田	富子		
	徳田保育園	園	長	佐々木	敏子		
	盛岡市福祉事務所(児童福祉)	保育係長		萬	英一		
	県盛岡教育事務所	指導主事		岩泉	康喜		
	県中央児童相談所	上席心理判定員兼判定指導係長		土屋	文彦		
村	盛岡地方振興局	保健福祉企画課長		工藤	正典		
		福祉課長		中村	純夫		

岩手山噴火対策防災訓練

健康教育担当理事 栃内 秀彦

平成12年度冬期岩手山噴火対策防災訓練は、平成13年2月18日青空が時々見られる天候のもと、玉山村文化会館とその周辺地を中心とし、近隣住民・県・周辺六市町村の関係者等、約2,600人の参加で行われました。

今回の防災訓練は、岩手山噴火に伴う火山泥流が岩手山東側に流れ、玉山村で大規模な被害が発生したとの想定のもとで行われ、われわれ岩手県（郡）医師会も災害救助訓練として参加しました。

救急車で次々に搬送されて来た偽患者さん

に対し、高橋会長を先頭に郡医師会に先生方が、速やかにトリアージス・チェックを行ない、処置用施設のテントに移送、重症患者は、ヘリコプターで医療機関へ搬送、と実践ながらの訓練を真剣に展開。

又、今回初参加の岩手メデカル・ハム・クラブは、及川先生を中心に訓練地に移動本部を設け、アマチュア無線に依る通信訓練を同時に施行、さながら戦争映画のシーンの様で印象的でした。

ヘルメット姿で参加した増田知事も無線通



会場の玉山文化会館



増田知事も参加



野外訓練風景



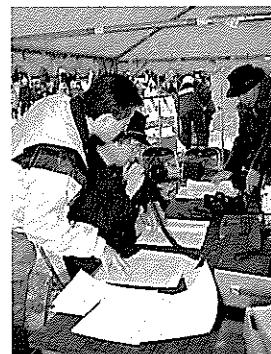
トリアージタック



ヘリコプター搬送



搬送訓練



無線訓練

信に興味を示し、テントの内に入って及川先生に、熱心に質問をしていました。

知事もマスコミから、今後の訓練の予定を聞かれ「これまでの訓練の反省を活かしながら、形をかえて訓練を続けたい」とコメント

していました。

今回から六市町村全ての訓練は一応、終了となり、初回より参加いただきました多数の郡医師会の先生方には、心より感謝申し上げます。

平成12年度冬期岩手山噴火対策防災訓練 アマチュア無線通信訓練報告

総務担当理事 及川 忠人

今回の防災訓練の目的は災害発生初動期における情報伝達通信訓練を実施し、合わせて岩手山近隣市町村村および県内のアマチュア無線局との交信テストを行い、アマチュア無線の役割の認識と防災意識の向上・啓蒙することにありました。

平成11年10月18日、松尾村を最初に始めた岩手山噴火対策防災訓練は、各市町村を一巡して玉山村での訓練が最後となり、マンネリ化に流れてきた感があることから、災害初動期における情報伝達訓練をアマチュア無線を利用して行うことを今回県医師会の意向として提案した。その提案が各機関のご理解とご支援を得ることが出来、その訓練概要を述べて報告に替えたい。

実施の日時が平成13年2月18日（日）午前10時から11時45分で、当日の防災訓練と完全に時間を同期させて、10：30am火山泥流発生の情報伝達をアマチュア無線からの情報として発信し、現地本部に伝達する訓練非常無線を実施して、電話等の通信途絶を想定しての訓練非常通信・さらに被害想定地域からの被害状況情報伝達訓練・合わせて岩手県医師会本部への被害状況情報伝達訓練をレピーターを用いて実施した。

さらに、岩手山近隣町村のアマチュア無線局約5局との交信テストも達成され約50局との訓練通信テストが成立することが出来た。発信局は岩手メディカルハムクラブ移動局JH7YTMのコールサインで、訓練非常無線を訓練会場である玉山文化会館姫神ホール駐車場に置き、特設アンテナを設置した。使用周波数は145.500MHzを主体に使用し、被災地区（3地区：松内・生出・船田）および現地本部および県医師会本部との情報伝達訓練、および岩手山近隣町村のアマチュア局との訓練非常通信を実施した。

アマチュア無線・通信訓練システムは現地本部（県総務部・県警・消防・自衛隊・玉山

村他）が玉山村総合福祉センターに設置されて隨時被害状況を連絡出来る体制を取り、防災訓練場の岩手メディカルハムクラブ移動局は、岩手メディカルハムクラブのメンバーにより訓練非常無線が計画通り実施された。また被災地区現場：生出地区・船田地区・松内地区からの被害状況報告も実施され、さらに439.880Repeater（UHF：極超短波）を用いた非常通信訓練を、岩手県医師会本部の岩動常任理事と小生（及川）の間で実施することが出来た。合わせて日赤奉仕団アマチュア無線クラブ等との訓練非常通信も実施した。

今回、防災訓練準備の段階で、日本アマチュア無線連盟岩手県支部と岩手メディカルハムクラブが正式に参加団体として認知され、中央消防署や各関連団体の協力の下に防災訓練に参加することになりました。これまでにお客さんのような立場で交信テストを行うに留まったことから考えますと、訓練の初動発動期に訓練非常無線の実施を中心に防災訓練に公式に位置づけられて参加できたことは大きな意義があると思われます。今後さらに、具体的な非常時を想定した情報伝達システム構築への糸口なるように努力することが必要と思い、各位のご配慮に感謝しております。この訓練へのご支援を惜しまなかった高橋牧之介岩手郡医師会長を始め、多くの先生方そして関連機関各位特に中央消防署のご支援ご協力に感謝すると同時に、県内各地および岩手山山麓の多数の参加アマチュア局、そして地元の玉山村のアマチュア局のご協力に感謝して、防災訓練におけるアマチュア無線通信訓練の概要の報告に替えていただきます。



労災保険における 二次健康診断給付事業について

日医の労働者健康開発プロジェクト委員会は、労災保険法を一部改正して平成13年4月から導入される二次健康診断給付事業で、給付対象者の実質的選択基準となる定期健診、二次健診の検査値や、二次健診の検査項目などについて報告書をまとめた。

定期健康診断で血圧検査、肥満度、血糖検査、血中脂質検査の4項目全てが所有見となつた労働者の二次健診費用、医師などが行う保険指導の費用を労災保険の給付対象とするものである。同法案は過労死の予防を目的としており、公的保険制度に予防給付の概念を取り入れるものとして注目を集めている。

★二次健診を行う所有見者判断のガイドライン

- (1) 肥満～BMI（肥満度）25以上、ウエスト周囲型（男性85cm以上、女性90cm以上）
- (2) 血圧～収縮期血圧140以上、また拡張期血圧90以上
- (3) 血中脂質～総コレステロール220mg/dl以上、HDLコレステロール40mg/dl未満、トリグリセライド150mg/dl以上
- (4) 血糖～空腹時血糖110mg/dl以上、HbA1c5.6m%以上

★二次健診項目

- (1) 頸部エコー検査
動脈硬化病変のスクリーニング
MRI検査は、必要な者には「医療」として行う。
- (2) 運動負荷心電図または心エコー検査
運動負荷条件はガイドラインに示す。
運動負荷試験禁忌と認められた場合、心エコー検査を実施。
- (3) 空腹時血中脂質検査
空腹時における血液中の総コレステロール値、HDLコレステロール値、中性脂肪値を測定。

(4) 空腹時血糖検査

定期健診でHbA1cを行わなかった者は、空腹時血糖検査とHbA1c検査を行う。

(5) 微量アルブミン尿検査

定期健診時尿蛋白陽性所見（±）、（-）を示す者は、早期尿の微量アルブミン尿検査を行う。

家族歴及び既往歴に関する問診

高血圧、糖尿病、脳血管疾患及び心疾患等に関する家族歴はリスク要因として重要。

★特定保険指導者について

定期健診及び二次健診の結果、肥満、高血圧、高脂血症、高血糖が認められることから、食生活上の指導及び脳血管疾患及び心疾患の発生予防に必要な飲酒、喫煙、休憩、睡眠等の生活指導について健康担当医及び産業医を対象としたガイドラインを作成する。

★二次健康診断等給付及び保険指導の実施機関

原則として労災指定医療機関を対象とする。具体的には、医療機関も含めて健診等ができる機関、労災等の給付ができる機関が考えられ、労災病院と二次健診を行う設備があると都道府県労働局長が指定した病院、診療所となる。指定要件は4月までに示される。運動療法の実施機関については、労災指定医療機関のリハビリ施設、健康保険増進サービス機関等の活用が規定され実施機関の一覧パンフレット等が作成される。二次健診における各検査の進め方や留意点については、保健指導の実施方法とともに別途ガイドラインを作成し、プロジェクト委員の委員が専門領域ごとに分担し、平成13年3月15日号の日医雑誌に掲載する。

表紙 天皇御製

零石町 高橋 孝

今年の歌会始のお題は「草」でした。秋も早い那須の朝でしょうか、朝霧が小さい水晶の玉の様に輝き、朝の光りに露も静かに、静かにチカ、チカと光りの歌で踊っているよう深閑として、小橋に白樺の交じった小道を美智子様は天皇の左手の環、小指に軽く右手を添えられて、天皇のお顔を左手から美しい笑顔でのぞき込むように、はしゃぎ又は静かに散歩の途中だろうか、天皇が野菊か、可憐な草花を見つけ在りし日の父昭和天皇、母皇太后様が愛し、好きだった花について美智子様と思い出を語り合った時の情景を詠んだ歌が歌会始に披露された。

「父母の愛でましし花思いつつ我妹と那須の草原に行く」

人間天皇と言う言葉が一時流行したが、まさに天皇の詠む歌は、昔流に言うと「汝臣民を愛し」で、優しく、お情け深く、園遊会にでもご招待されたら天皇の国民を慈しむ心の中を聞くことが出来るやもしれないが、例えば国民体育大会でのお言葉、誕生日のお祝いへの御礼のお言葉などは、慣例になっている文言だろうが心は伝わってこない。しかしお歌を聞けば我々俗人の心と同じ心が、いやそれにも勝る慈悲深い心が詠われている。

かつて昭和天皇が東大第一外科の森岡教授の執刀で臍臓だったか腹部の手術を受けられた祈りに詠った歌に

「くすし（薬師）らのすすみし枝にわれの身は落ち着きにけりいたつき（いたづき、苦勞）をおもう」

と詠んでいる。医師達の優れた技術、努力のお陰で私の身体の苦しみも和らいできた。これらのご苦労に感謝していると詠っています。

続いてこのような歌を披露すると昔なら不敬罪に問われたかもしれないが、万葉集に恋人に思いをよせる歌に

「我妹子し我を偲ぶらし草枕旅の丸寝に下紐とけぬ」

この歌は、当時、下紐が自然に解けるのは恋人が自分を思ってくれているし、恋人に逢える前兆だと信じられていて、あの娘が私を思っているらしい、旅の丸寝で下紐がとけたからの意で、美しく、多くの心の通う様が詠いこまれている。

和歌は倭歌ともいわれ漢詩にたいして日本の歌の意味もあり国歌ともいわれた。朗吟されることもあり、和歌は滅びてゆくと言う人もいるが、私は三十一音の短詩形として国民詩として長く長く続くだろうと思っていますし続けて頂きたいと願っています。現に僅かに三十一文字で多くの、多くの心を伝えることのできる和歌を作り、日本の文化を学ぼうとする人々が世界中に広がりつつあると言われております。多くを語らなくても短い言葉で自分の気持を表すことができたらすばらしいことだと常に思っている。いつか一首位作ってみたいと思ってもいるがなかなか難しい。歌人達は脳の構造が違うんだろうと思っている。私も趣味の中で万葉集からも書かせていただいているが、万葉集の歌人より優れていると言われる歌人、啄木・柳田国男・茂吉・左千夫等の近代の歌人にお世話になっている。又独特の節回しで吟詠される皇族、世界中から選ばれた歌人の歌が聞ける毎年の歌会始を楽しみにしています。那須の散歩でお二人は皇太子が子供に恵まれることを願っての話題もあったかも……因に歌会始は昭和22年からでお題は「あけぼの」でした、来年のお題は「春」と決まりました。

「父母のめでまし 花(者那)お(於)もひつ
わき(支)も(毛)と(登)那須の草原を(乎)ゆ(遊)く」

と拙作ですが趣味の「かな」で天皇御製を書いてみました。ご笑覧ください。



編集後記

◎今回の岩手郡医報の表紙は今年の歌会始めに天皇陛下がお読みになった和歌を、高橋孝先生が心をこめて書にされた作品で飾ることが出来ました。大変格調高い表紙になりましたと感謝いたします。

◎本号は平成12年度通常総会の特集のようになりましたが、郡医師会の計画案、決算・予算案が満場一致で可決されました。掲載しますのでお目通しの程よろしくお願ひします。

◎岩手山噴火対策防災訓練は柄内秀彦先生が多くの写真によるレポートをしてくれました。増田知事の参加やヘリ搬送、無線交信風景など、リアルな写真が緊張感を伝えてくれました。本号の写真の殆ど全てが柄内先生の撮影によるものです。心から感謝します。

(文責 坂井 博毅)

岩手郡医報：No.69／2001年4月6日発行
編集・発行：岩手郡医師会
印 刷：(株)熊谷印刷